

株式会社 広貫堂

事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

医薬品OEM受託事業、グローバル事業、リテール事業、及びグループ各社への販売のいずれにおいても目標値に達せず、純売上高は2,568百万円(前期比94.2%)、経常利益は70百万円(前期比90.8%)となりました。

(事業運営面)

新中期経営計画、最終24年度目標達成に向けての「創って作って売る」一気通貫体制を推進。製品・顧客戦略を基に各ミッション(グローバル&医薬事業・コンシューマ事業・ヘルスケア事業)の遂行、今後に向けて新製品開発案件の実現を図ります。

課題への取組み

第2四半期及び下期対応として各部署・マーケティングプランの再構築、チーム運営にあたりスピード・差別化・オープンをキーワードに掲げ業務を推進すると共に、経営計画に基づく全社コスト削減(製造・営業経費、及び原材料費等)を実践します。

トピックス、適時情報

1. 中国企業との調印式(提携意向) 4/25
2. インターフェックスジャパンへの弊社ブース出展 6/30~7/2
3. 銀座めざましホールへの出店
4. 第96回定時株主総会 6/23

業績の概況 (広貫堂・単体) (第一四半期)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	2,495,592	2,481,845	2,724,054	2,568,349
経常利益	157,903	127,972	77,576	70,466

広貫堂グループ

連結経営成績に関する定性的情報

日本薬剤(株)におけるドラッグ流通事業は堅調に推移しましたが、薬都広貫堂(株)の配置卸事業、広貫堂薬品販売(株)及びトキワ広貫堂(株)の配置販売事業は、販売目標に至っていない状況にあります。また、広貫堂メディアーズ(株)の食系事業、広貫堂産業(株)のIT事業・保険事業においても営業努力を重ねましたが、グループ連結の第一四半期純売上高は3,266百万円(前期比99.7%)、経常利益は65百万円(61.3%)にとどまりました。

新工場投資における償却負担、広貫堂薬品販売・新事業での人員増等を考慮に入れ、今年度グループ全社においてコスト削減の取組みを行っている処であります。又今年度、5つの付加価値創生へのチャレンジとして重点施策(グローバル&医薬事業・ヘルスケア事業・コンシューマ事業)の推進により安定収益と持続的成長を目指してまいります。

業績の概況 (広貫堂グループ・連結) (第一四半期)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	3,157,402	3,199,207	3,275,597	3,266,665
経常利益	175,844	221,699	106,036	65,044

平成22年度
(第一四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

薬都広貫堂 株式会社

事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

廣貫堂および昨年度合併した共栄製薬販売(株)の配置販売業者様へのエリア別販売戦略を基本とする営業展開による懸場保全と製品シェア拡大を目指し、新法対応も含めた配置市場に求められる製品開発・製品導入を実施しましたが、残念ながら販売目標比92.2%で第一四半期を終えております。また、営業利益、経常利益は低調ながら計画を上回りました。

トピックス、適時情報

- 6月18日に第4回定時株主総会および取締役会において5名の役員が選任されました。
代表取締役会長 岩城義則 代表取締役社長 剣田義徳
取締役 槻太朗(東京支店長兼任) 取締役 岩城裕一 取締役 川筋邦夫
- 第一四半期での新製品およびリニューアル製品として下記製品を発売しました。
【新製品】・ハイカゼ錠、ハイカゼカプセル【第1類医薬品】・ピーエスパンFRテープ【第2類医薬品】
【リニューアル】・黒酢バーモントLA、シークァーサーバーモントLA【清涼飲料水】

業績の概況 (第一四半期)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	1,187,588	1,017,515	941,636	896,380
経常利益	-32,615	-4,441	-11,634	-6,226

日本薬剤 株式会社

事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

売上高は、昨年発売したアルミ缶飲料、パウチ飲料、医薬部外品ドリンクおよび本年6月に発売した、かぜ薬などが寄与し、前年同期比を100,785千円上回りました。また経常利益は売上増により、前年同期比10,701千円増の35,789千円となりました。

(事業運営面)

メディカルサポート事業部およびヘルスケア事業部では市場ニーズに応えた製品の開発を進めております。年間を通じて順次製品を上市しています。

トピックス、適時情報

- 6月7日に第50回定時株主総会が開催され、取締役5名が選任され、それぞれ就任いたしました。また、監査役1名が選任され、就任しました。
その後の取締役会で、代表取締役に岩城義則氏が選定され就任しました。

業績の概況 (第一四半期)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	724,740	735,296	859,846	960,631
経常利益	46,227	27,986	25,088	35,789

平成22年度
(第一四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

廣貫堂産業 株式会社

事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

売上高は、廣貫堂および各グループ会社からのPC等の発注が計画よりも大量にあった為に、内販売上が計画よりも大幅増となりました。また外販売上、保険売上もほぼ計画通りとなりました。売上全体としては計画よりも4,848千円増となり、営業利益、経常利益も第一四半期としては計画を上回りました。

(事業運営面)

大型販社向けとして「懸場物語プロ」ハンディ版の開発は完了し、第1号ユーザに4月に納品を行い、問題なく運用され顧客満足を得ています。また、数社より導入を前向きに検討する旨の話や、すでに内諾をいただいた業者と導入に向けて打ち合せを実施しております。

トピックス、適時情報

1. 6月18日に第64回定時株主総会が開催され、取締役3名(中田秀芳、小紙司、岩城裕一)が選任され、それぞれ就任いたしました。また、監査役1名(村達男)が選任され、就任しました。
その後の取締役会で、代表取締役社長には中田秀芳氏が選定され就任しました。
この結果、当社の取締役の陣容は次のとおりとなりました。

代表取締役社長 中田秀芳 取締役 小紙司 取締役 岩城裕一

業績の概況 (第一四半期)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	23,933	22,719	25,051	54,735
経常利益	2,316	346	-1,596	4,100

広貫堂メディアーズ 株式会社

事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

売上高は、ホームセンター向け「ゼリー飲料」の発売及び、新商品「富山廣貫堂やくぜんカレー ポーク」を4月に発売し、既存商品の販促強化に努めた結果、24,887千円の増(前期比136.3%)となりました。また、経常利益は、売上増並びに経費の削減、前期実施事業の廃止等により、前期より大幅に改善いたしました。

トピックス、適時情報

1. 6月18日(金)、第7回定時株主総会を開催し、取締役4名(高岡隆志、小紙司、岩城義則、福島邦光)が選任され、それぞれ就任いたしました。その後の取締役会において、代表取締役社長に高岡隆志、代表取締役会長に小紙司が選定され、それぞれ就任いたしました。

この結果、当社の取締役の陣容は下記の通りとなりました。

代表取締役社長 高岡隆志 代表取締役会長 小紙司 取締役 岩城義則 取締役 福島邦光

業績の概況 (第一四半期)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	78,627	103,119	68,546	93,433
経常利益	2,239	1,562	-21,121	-500

平成22年度
(第一四半期)
グループ各社

広貫堂グループ IR情報

広貫堂薬品販売 株式会社

事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

第一四半期対前年比8.1%上昇、要因と成るのは100mlドリンク、ファイトロイヤル、葛根湯内服液、六神丸、熊胆円等、製品を選定し得意先への説明も商品だけではなく、季節に応じたセールストークへと得意先へのアプローチ内容の変化を持たせた取り組み等の結果と考えます。

(事業運営面)

5月より取り組みを始めた、冷蔵庫事業につきましては富山県内を中心に得意先の獲得に取り組んでいます。第二四半期までには富山市を中心に得意先軒数1,000軒を目標に取り組んでいます。

トピックス、適時情報

1. 新卒者11名入社 5、6月新規得意先開拓にて約1,600軒の顧客獲得
2. 5月6日よりオフィスドリンクサービス事業開始
3. 6月22日に第6回定時株主総会および取締役会において4名の役員が選任されました。
代表取締役会長 小紙 司 代表取締役社長 平井 裕 取締役 安井 淳一
取締役 大野 正広

業績の概況 (第一四半期)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	415,337	468,061	444,823	480,896
経常利益	-31,522	17,433	-2,672	-2,670

トキワ広貫堂 株式会社

事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)

第一四半期の業績面は、配置部が去年に引続き、売掛金の圧縮を最優先に取り組みました。上期の収益は厳しくなりますが、下期には回復する計画であります。

(事業運営面)

運営面では、本年度より食系部を本格的に稼働させ、新しい市場での口座数並びに売上の獲得を行っております。市場の反響が極めて良好であり、確実に成果を上げています。又、配置部でも口座数獲得の為、新懸委託を導入し懸場を増やしています。

トピックス、適時情報

1. 6月17日に第6回定時株主総会が開催され、取締役3名(鈴木英二、平井裕、小紙司)、監査役1名(広明 滋雄)が選任され、それぞれ就任しました。その後の取締役会で、代表取締役社長には鈴木英二氏が選任され、就任しました。この結果、当社の取締役の陣容は次のとおりとなりました。
代表取締役社長 鈴木 英二 取締役 平井 裕 取締役 小紙 司

業績の概況 (第一四半期)

(千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	71,549	91,540	104,535	92,431
経常利益	-3,152	-10,412	5,573	-5,729